

令和7年度南部町教育行政主要施策の点検・評価

【総務・学校教育課】

重点施策	意 見	質 問 等
1 不登校の未然防止・早期対応の取組強化 (1) 児童生徒の生活及び学習環境に届く「チーム学校」の動きの確立と南部町不登校対策委員会の立ち上げによる機関連携の強化 (2) 専門家の指導助言による児童生徒理解に基づいた支援の実践と、教職員一人一人のスキル向上及び学校組織としての支援体制の充実	○出現率が減少傾向にはありますが、小学校に関しては、県・全国と比較して高いのが気になります。 ○主に家で過ごしている児童・生徒の学力が心配されるところです。 ○不登校児童生徒の出現率が減少したとのことで、これまでの取り組みの成果を感じる。 ○フリースクール等へ通所する児童生徒への費用補助は良い取り組みだと思う。 ○教育支援センター「さくらんぼ」利用者が進路の実現ができてよかった。校内サポートルームの設置がより良い方向に進むことを期待しています。 ○町教育相談機関への不登校相談件数が100件あり、相談体制が有効に機能しており次につながることを期待しています。 ○不登校の未然防止のため、年1回程度生徒・児童に対するアンケートなど実施すると気持ちの変化など気づきやすい気がしました。	○「チーム学校」の動きの確立について ①「チーム学校」の動きの具体について教えてください。 ②PDCAサイクルで取り組む中で、成果指標のような達成基準は作成されたのか教えてください。 ⇒（事務局回答） ・「チーム学校」の動きとしては、ケース会議等を行い、情報共有をもとに役割分担を行い対応に当たっています。達成基準は作成していませんが、ケース会議を情報共有の場のみとせず、PDCAサイクルで状況改善に努めています。 ○南部町不登校対策委員会の立ち上げによる機関連携の強化について ①「南部町不登校対策委員会」はどのような方々が委員になっておられますか。 ②「南部町不登校対策委員会」の立ち上げにより、どのような効果があったのか教えてください。 ⇒（事務局回答） ① 令和7年度は不登校対策委員会を2回開催し、副町長、福祉事務所長、小中学校長、スクールソーシャルワーカー、事務局がメンバーとなっており行いました。 ② 効果としては、学校、教育委員会のみならず町の課題として状況を共有できたことです。また、福祉部局との連携が図られました。

		○日々児童生徒に向かう教職員の児童生徒理解の研修はどのように進められているでしょうか。（具体例を挙げて説明してほしい） ⇒（事務局回答） ・学校や年度によって状況が異なる部分がありますが、校内研修であれば年度初めの情報共有を兼ねた研修、年2回実施のQU調査（学校生活の満足度や学級の状態を調べるための調査）に関する研修等があります。一方で外部と連携した研修では、LD巡回相談の機会をとらえての研修、講師を招聘しての研修、県教育センターが主催する研修への参加等があります。 ○不登校児童生徒（ホームスクーリングなど通学していない生徒）の家庭へ、昼食費負担に対する経済的負担軽減の措置や相応する対応はあるのでしょうか？（他地域で、給食を食べに学校に行くことが経済的負担軽減になると不登校児童生徒保護者へ指導があったと聞いた為質問しています） ⇒（事務局回答） ・登校できない状況がある程度継続した場合は保護者から給食を止める申請が出されるケースがあります。学校としては、給食を理由にして登校を促すこともあります。
2 学力の向上 (1) 主体的・対話的で深い学びを通して進めるICT活用能力も取り込んだ3つの資質・能力の育成	○年度当初に町教委主催での「教職員研修会（学力向上）」（高旗浩志岡山大学教授のよる「共同学習」の講義）を開催され、南部町としてのベクトルを先生方に示されるのはとても大切なことと思います。ぜひ、毎年開催されることを望みます。 ○全国学力・学習状況調査の結果で、中学国語が全国レベルです	○中学校区ごとの小・中合同授業研究会の実施について ・南部町が推進されている「共同学習」の深化に向けて、各学校が意欲的に先進校視察等に取り組んでおられます。それらの研修の実践として、また、小中連携の取り組みの充実を図るために、「共同学習」をテーマとした中学校ごとでの授業研究会をどの程度実施されておられますか。

(2) 子どもたちの表現活動を学びの深化につなげ、子どもたちが学習の主体者として取り組む授業づくり	が、その他は全国より下回っています。教科間での格差も気になるところです。引き続き学力保障にご尽力願います。 ○学力向上のためにもコミュニケーション能力は大切です。コミュニケーション能力の育成をお願いします。 ○体験活動の学校差 学校ごとの特色も大切だが、大山登山やスキー教室などの体験学習の場が、学校により差があるのはいかなものか。地元の資源に対して平等に触れる機会をつくれるのは学校しかないと思います。 ○年度当初に全教職員対象の学力向上研修で考え方を共通理解されたことは大事だと思います。 ○新たな学力向上モデルの構築を図る取組で視察や外部講師招聘されていていいと思います。視察は各学校複数名の参加だとより早く理解が進むと思われます。 ○小学校では、外部人材の活用が多くされ、教育効果が上がったようです。引き続き学校が楽しいと感じる学習をお願いします。 ○一人一台端末活用の肯定的な効果が高く、成果が上がっているかと思われますが、先進国の現状を鑑み、今後どのように進めていくか十分検討していただきたいと思います。	⇒（事務局回答） ・中学校区の合同授業研究会は法勝寺中学校区、南部中学校区それぞれ1回ずつ実施しています。この他、事前検討会や各校の授業研究会への相互参加も行っています。 ○中学の水泳学習でしあわせのプールを活用されていますが、生徒や保護者の反応はどうか。 ⇒（事務局回答） ・南部中は令和7年度よりしあわせプールを利用しておりますが、保護者からの反応は、学校や教育員会には特に入っておりません。生徒については、2学期の利用ということもあり温水がよかったと伺っています。 ○視察への南部中学校職員の参加がなかったのはなぜですか。 ⇒（事務局回答） ・校長戦略予算は各校の課題や実情によって校長が計画するものです。令和7年度は本予算を活用しての南部中学校の視察はありませんでしたが、県予算を活用した視察等の研修は行っております。 ○新たな学力向上には校内研究が一番だと思っています。各学校の研究状況はどうでしたか（①研究主題、②研究会回数、③講師の招聘状況等） ⇒（事務局回答） ・西伯小学校 ①進んで学び、かかわり合いながら、考えを深め、意欲的に表現できる子どもの育成
--	---	---

	○受験や就職活動において、英会話の重要性が高まっていると感じます。塾に行かなくても英会話を身に着ける環境があると、南部町で子育てしたい人が増える気がします。	②19回 ③高旗先生（岡山大学）1回、町指導主事2回、県内学校長（和田小）1回、町内教諭1回 ・会見小学校 ①共同して学び、自分の考えを深める児童の育成 ～主体的・対話的で深い学びのある算数の授業づくりを目指して～ ②11回 ③高旗先生（岡山大学）1回、町指導主事1回 ・会見第二小学校 ①主体的に学び、高め合う子どもの育成 ～対話と協同で学力向上を目指して～ ②19回 ③高旗先生（岡山大学）1回、町指導主事2回、県外教育委員会（安来市）1回 ・法勝寺中学校 ①いごこちのよい学級を基盤とした、学び合う集団の育成 ②6回 ③高旗先生（岡山大学）1回、県指導主事1回 ・南部中学校 ①主体的に学び、互いに深め合える生徒の育成 ～確かな学力の定着を目指して～ ②3回 ③高旗先生（岡山大学）1回、町指導主事1回 ○一様でない情緒教育への現場対応の難しさについて、対策はありますか？教職員側の研修などの機会も豊富にあれば良いな
--	---	---

		と思います。 ⇒（事務局回答） ・芸術にしっかり触れさせる機会が、授業時間等の制約によって十分ではない状況ではあるかもしれませんが、文化芸術事業等本物にふれる機会を提供するよう努めています。
3 コミュニティ・スクールの充実 (1) 中学校区学校運営協議会と各校CS委員会の再構築 (2) 協働活動統括推進員による取組支援と地域学校協働活動との連携強化	○コミュニティ・スクールが導入されて20年になるかと思います。学校や地域がそれぞれの役割を果たしたとしても、そこが一体となれているのか…。熱量の差を感じる時もあります。コミュニティ・スクールのねらいは何だったのか…。地域も踏ん張りどころ…。 20年経った今こそ、点検が必要かもしれません。 ○5 ページ14行目から記載されている本町の教育の主目的に書かれているように本町のCSの取り組みや「まち未来科」カリキュラムは、本町教育の根幹といてもいいと思いますが、24ページ「次年度に向けた次の行動具体策」に書かれている内容を読むと教職員に十分な理解が図れていないと思われます。年度当初に、CSと「まち未来科」の考え方も十分な研修をしてほしいです。 ○詳しくないのでコメントできないですが、CS関係者の皆様のご尽力に対して頭が下がります。 ○CSについては小中学生の児童がいる・いた家庭以外に浸透していない印象があります。CS委員が3つの層（入学予定・在学中・卒業済）の家庭からの参加があれば、より活発な活動にな	○事業報告書のP12の下部「今後に向けて」の欄で、学校とPTAの関係の見直しの中で、学校とコミュニティ・スクールとの関係も捉え直すこととしているとあるが、もう少し教えてほしい。 ⇒（事務局回答） ・南部町内PTAの加入率は100%に近いですが、役員の候補者がなかなか決まらない、活動の参加率が低いなどの状況があります。また、郡や県のPTA組織から脱退する動きも他町では見られます。今後PTA組織や活動の維持も縮小していくことが見込まれることから、PTAとCSとの連携を強化していくことを視野に入れています。 ○本町が考えるコミュニティ・スクール「まち未来科」の取り組みで児童生徒につけさせたい「学力」とはなんですか。 ⇒（事務局回答） ・まち未来科で子どもたちに身につけてほしい力として、「ふるさと愛着力」「将来設計力」「社会参画力」「人間関係調整力」の4つの力を示しています。

	るのではないのでしょうか。	
4 部活動改革の推進 (1) 部活動地域移行（展開）に受けた取組の推進 (2) 部活動の地域移行（展開）に関する計画及び状況の保護者、地域住民への周知・啓発	○R 7 年 12 月に国の「ガイドライン」が策定され、「地域展開」の推進が示されましたが、「原則：受益者負担」の方針は以前と変わらないため、地方では財政負担や指導者確保等をはじめとする課題が山積しており、県内の市町でも「地域クラブ」の設立が困難な状況があります。 そのような中、南部町はR 8 年度から「南部町型地域クラブ方式」への完全移行の方針を打ち出し、実証事業を実施されるなど、その取り組みは県内のパイオニアとして高く評価できると思います。 今後は、南部町の取り組みのノウハウ等を県内各市町に情報提供されるなど、鳥取県全体の推進に向けたモデル的存在としての活躍も期待します。 ○「南部町型地域クラブ」が、鳥取県の「推進計画」に示してある「これまで部活動が学校教育の中で担ってきた教育的意義や目的について継承・発展させた活動であり、生徒の人間形成に寄与することを目的とした活動」のモデルとなるよう期待しています。 ○教育委員会の主体的なリードで、多々課題はあるもののスムーズに移行していくことができた。 ○地域移行したことで、これまでの部活動と違い加入率が大幅に下がった。運動離れと長期休業時の生活リズムの乱れ等が心配。	○R 7 年度、地域クラブや部活動に参加していない生徒（いわゆる帰宅部）は、何%くらいですか。（把握できれば、R 8 年度も） ⇒（事務局回答） ・令和 7 年度は生徒数 252 名のうち 19%の 48 名、令和 8 年度は生徒数 244 名のうち 27%の 60 名が地域クラブや部活動等に未加入です。 ○平日に 2 校の生徒が一緒に活動する場合は、車での移動となりますが、活動時間は確保できるのでしょうか。 ⇒（事務局回答） ・活動時間は時期によって決められています。新人戦後から建国記念日までの期間は部活動終了時刻が 17 時となっており、その期間は公用車運行を行わず、各学校で活動時間を確保しました。 ○団体競技で、2 つの中学校の生徒だけではチームが編成できない場合、どうなるのでしょうか。 ⇒（事務局回答） ・地域クラブについては、町内生徒という制限は設けておらず、現状も他自治体からの生徒も参加しています。 ○地域移行については、生徒や保護者の思いを含め、様々な面での検討事項がありご苦労もあったと思います。 移行後の学校・生徒・保護者の反応はどうか。又移行の成

	○部活動地域移行が着々と進んでいてとてもうれしく思っています。公用車の運行などとても配慮されています。 ○南部町での部活動地域移行は、先行モデルになっていると思います。一方で何の活動もしない生徒が増えるのは、今後の課題になる気がします。	果は。 ⇒（事務局回答） ・1学期に両中学校生徒を対象に「南部町型地域クラブに関するアンケート」を実施しました。地域クラブ化に対して75%の生徒（地域クラブに加入している生徒は85%）が肯定的にとらえていました。成果としては、専門的な指導が継続して受けられることや町外生徒との関わりや地域の方との交流等新たな価値が創出されていると認識しています。 ○吹奏楽クラブ等文科系クラブの地域移行状況はどうですか。 ⇒（事務局回答） ・文化系としては、「里地里山クラブ」と「美術クラブ」を立ち上げました。「里地里山クラブ」は活動していますが、「美術クラブ」は現在参加している生徒がいません。今後、体験会をすることを検討しています。吹奏楽については、指導者になっていただけそうな人の情報を収集し、個別に交渉等を行っている状況です。 ○放課後、部活に行くためバスの運行時刻もあり、生徒への個別指導などの時間確保はできていますか。 ⇒（事務局回答） ・活動時間は時期によって決められています。新人戦後から建国記念日までの期間は部活動終了時刻が17時となっており、その期間は公用車運行を行わず、各学校で活動時間を確保しました。 ○部活動に参加していない生徒はどれくらいいるか教えて下さ
--	--	--

		い。 ⇒（事務局回答） ・252名のうち、地域クラブ（サッカー・剣道）も含めると19%の48名が未加入です。部活動だと23%の58名が未加入です。 ○地域移行により、活動や指導が閉鎖的になる可能性はないのか気になります。情報共有網やサポートデスクの措置はあるのでしょうか？ ⇒（事務局回答） ・情報共有網やサポートデスクの設置はしていません。しかしながら、閉鎖的にならないよう令和8年度は情報交換会（地域クラブ、スポ net なんぶ、中学校、教育委員会事務局）を2回程度予定しています。今後は情報共有の在り方も含めて課題等について協議します。
5 GIGAスクール構想によるICT活用の支援 (1) デジタル教科書やデジタルドリル教材の利活用やオンライン校外学習などICTを活用した授業実践を支える環境整備 (2) 定期的に開催するICT担当者会での授業実践交流及びIC	○完全実施までに、専門家を招聘、公開授業参観など研修を積まれることを望みます。	○大型モニターの更新など費用が上がっていたが、今子供たちが使っているクロームブック等も更新の時期が来るようだが、その場合は国や県から補助があるのか？ ⇒（事務局回答） ・クロームブックの更新は令和8年度末に購入、令和9年度4月から使用できるように行います。国、県合わせて2/3の補助があります。 ○AI と対話しながら英語を学習できるアプリとは、どのようなものか。また、使っているのは何年生でしょうか。 ⇒（事務局回答） ・小学5年生から中学3年生が対象です。教科書に準拠したシチ

T 支援員及び専門家を活用した授業支援		ュエーションごとの会話ができます。また、発音や、文法等のドリルではアドバイスをもとにフィードバックしながら学習を進められます。
----------------------------	--	--

【人権・社会教育課】

重点施策	意 見	質 問 等
1 次代の町を担う人材の育成 (1) 多様な世代、とりわけ働く世代を意識した生涯学習・社会教育の場の提供 (2) 高校生サークル・新☆青年団の活動支援と広報の充実、他地域との交流活動の促進	○高校生サークル・新☆青年団の活躍は地域住民としてとても嬉しく思うところです。ふるさとを思う気持ちとこれからの南部町を担っていく若い力に期待するとともに、その人材育成と支援を今後ともよろしくお願いします。 ○総合型地域スポーツクラブができる前に、町民のスポーツ実施率的なアンケート調査を行った記憶がある。それ以降実施されていないので、どこかのタイミングで調査を行い、どのように変化してきたのかを知りたいです。 ○働く世代を意識した生涯学習の社会教育はとても難しいと思いますが、休日のスポーツ、親子活動、今知りたい生成 AI 研修等、またスポ net なんぶとの共催で何かできるのではと考えます。 ○「高校生サークル with you 翼」「新☆青年団へん to つくり」の活動が進んでいてたくましく感じています。今後もしっかり支援してほしいと思います。 ○高校生サークルから新☆青年団へとどんどん新しい人が加入し、循環していくことで組織が活性化していくと思います。 ○県外にいる大学生層をターゲットにした新☆青年団の活動が始まったことで、高校生サークルからも活動継続や新規団員に期待できる。	○キナルの施設予約システムの利便性はどうか？以前、この使い勝手が良ければ、他施設への導入もあるかもしれないと聞いたこともあったが... ⇒（事務局回答） ・施設の現予約手順は、来庁いただいた上で申請書を記載、その後納付書をお渡しし、支払っていただき手順が完結します。現システムにおいては、事前登録団体のみ予約可能となっており、非登録者は、予約状況を閲覧できるのみであり、利用者にとって、一部不自由な点があります。このことから、他施設への導入に至っていません。 また、県下で統一した予約システムを取り入れる動きがあり、上記の課題を解決できるものとなるか動向を注視しております。 ○高校生サークルや新☆青年団の募集はどのように行っていますか。 ⇒（事務局回答） ・高校生サークル：中学校の卒業時期に中学３年生へ、高校生サークルのメンバーが直接、自身の経験を伝える場を設け、勧誘をしています。その後申請手続き後入会という形になります（毎年 10 名程度加入）。 ・新☆青年団：高校生サークルの３年生に対し、また、団員から知人への勧誘をしています。書面での手続きをしておらず、青年団は LINE グループで情報共有しており、そのグループに入ることにより青年団員とみなしています。

	○二十歳の集いでは振る舞いや設営で参画しているが、前日当日の負担が大きく参加者にも限りがあるので、今の団員層に合った関わり方への変更も良いかと思います。	
2 人権教育・人権啓発の推進 (1) 身の回りの差別や不合理に気づく人権教育、人権啓発活動の充実 (2) 人権学習推進委員、各振興協議会との連携による身近な人権課題の学習機会提供 (3) 町民を対象とした人権意識調査の実施	○ミカエル・セミナーなど様々な研修を企画されて、とても熱心に取り組んでおられると感じる。 ○町内にも外国からの就労者等がいらっしゃるが、そのような方とその国の文化や歴史等一緒に勉強する機会があってもいいかもしれない。 ○「ミカエル・セミナー」等人権教育、「児童生徒の学習会」、「熱と光の解放文化祭」の継続素晴らしいと思います。 ○人権教育や啓発は、地道に継続していくことが重要だと思います。時代に沿ったテーマを取り入れつつ興味を持ってもらうことが大事だと思います。	
3 家庭教育支援の推進 (1) 「スマイルサポートなんぶ」を核としたアウトリーチ型家庭教育支援体制の充実 (2) 家庭や家族のあり方を考える機会の提供に	○年度当初の「家庭訪問」が「家庭確認」と形を変えて実施している学校が多い中、小学校1年生を対象とした家庭教育支援チームによる全家庭戸別訪問（年3回）の実施は、並大抵の努力ではできないことなく、南部町の大きな強みに思います。大変ですが今後も継続してください。 ○「スマイルサポートなんぶ」の事業が R7年度は5年目となり、	○戸別家庭訪問について ・戸別家庭訪問後の保護者アンケートによると、すべての在宅家庭で肯定的評価とありますが、保護者にとってどのような点が好評だったのでしょうか。 ⇒（事務局回答） ・アンケート回答の肯定的評価としては、「とても話しやすかった」という多くの回答があり、「上の子の時も訪問してもらっ

よる家庭の教育力向上	小学生のいる家庭では周知されてきました。地道な活動が少しずつ実を結び「文部科学大臣賞」というとても高い評価をいただきました。さらには「スマイルカフェ」の取組で小学一年生以外の家庭との繋がりが期待されるところです。 ○文部科学省大臣表彰おめでとうございます。 ○小学1年生の全家庭を年3回訪問される取組は素晴らしいと思います。今後も継続をお願いします。 ○乳幼児から小学生まで隙間なく家庭教育支援事業がなされていていいと思います。 より多くの家庭が参加されるような企画をお願いします。	たので、気兼ねなく話すことができた」という感想をいただきました。5年が経過し、上のお子さんの時に訪問したこともあり、チームに対して好意的に迎えていただいています。 ○「みんな集まれ！あそぼう広場」など、沢山の内容が行われていますが、参加される方が、固定傾向ですかそれとも内容によって都度違いますか。 ⇒（事務局回答） ・人気企画のとっとり花回廊でのウォークラリーには毎年応募される多くのリピーターが見受けられます。一方、その他の企画については年度ごとに内容が変化することもあり、新規の申し込みが多数あります。 （参加人数：ウォークラリー116人、ピザ作り23人、プール遊び16人） （各種企画の募集定員を超える場合は、新規申込者を優先して受付しております。）
4 文化財保護の啓発 (1) なんぶふれあい館を拠点とする文化財保護の啓発 (2) 文化財保管倉庫の年次的な整理、埋蔵文化財包蔵地等における試掘調査の実施	○「板祐生記念館」は、企画展等工夫がされていて見ごたえがあります。地元はもとより広く宣伝して多くの方に見てほしいと思います。副館長さんの説明が絶品。 ○保護も大事ですが、会見地区にも赤猪岩神社だけでなく、周辺にはいくつか古墳もあります。多くの文化財をもっとたくさんの方に見てもらい古代～、ロマンに浸ってもらえたら嬉しいと思います。南部町への愛着も深まると思います。年次計画で、南部町の史跡巡りなど計画してみてもいいかもしれません。	

	○文化財の専門家の育成が今後の課題になる気がします。 ○音声案内などがあると、スタッフの方が常駐していなくても来訪者に十分な理解や認知になるかと思います。	
5 図書館利用の促進 (1) 地域や団体と連携した図書館づくりの推進 (2) 情報拠点施設としての確立、住民の求める知識や情報の的確な提供	○南部町の図書館は程よい大きさで、本も探しやすい利用しやすいとの声をよく聞きます。 ○有効活用が進んでいると思います。 ○読みたい本のアドバイス等職員の方の対応もとてもいいです。 ○新しい情報や、利用者のニーズに合わせた図書も購入がなされていると思います。 ○天萬図書館は、狭いこともあってか、本がかなりぎゅうぎゅうです。子どもが取り出すのは難しいと思われます。 ○南部町の図書館はソフト面・ハード面でも大変充実していると感じます。図書館で勉強している生徒も良く見かけるので、学力向上にも寄与している気がします。 ○適切な資料を豊富に案内してくださる司書さんたちに毎回感謝しております！	○なんぶらりーの説明をもう少し詳しく聞きたい。 ⇒（事務局回答） ・令和7年4月に設立された図書館を応援してくださる任意団体です。図書館を活動の場として、会員が楽しみながら様々な企画の実施を通して、主体的に関わり、図書館を盛り上げていただいています。令和8年1月から始まった読書会は好評で、毎回15名くらいの参加があります。読書会に参加されていない方へも本の情報を繋げるためになんぶらりーコーナーを作り、情報の発信をしていただいています。 ○新聞・雑誌が取り揃えてあっていいと思います。利用頻度はどの程度ですか。 ⇒（事務局回答） ・雑誌は全体の貸出冊数 136,768 冊のうち 5,345 冊の貸出があり、約4%の利用です。新聞は貸出をしていません。新聞も雑誌も多く利用があります。 ○法勝寺と天萬の図書館の本の並びが違うようで非常に探しづらいです。配架の見直しを行ったとありますが、同じになったのでしょうか。 ⇒（事務局回答）

		・天萬図書館でより利用しやすいように配架を見直ししたもので、両館の配架をそろえたものではありません。基本的には、両館とも日本十進分類法という本の分類に沿って本を並べており、その並びは同じです。ただ、分類別の並びとは別に置いている本もあり、配架がそれぞれの館で違います。館のスペースや棚の位置などが違うため、それぞれの図書館で工夫した配架となります。 ○天萬図書館やキナルなんぶ開設後の学力との相関関係の資料などあれば知りたい。 ⇒（事務局回答） ・天萬図書館やキナルなんぶ開設後の学力との相関関係の資料はございません。文部科学省が2025年度の全国学力・学習状況調査の分析結果を公表していますが、読書が好きな児童生徒ほど成績が良く、家庭の蔵書数とも相関があることを示唆しています。
--	--	--